

2023年（令和5年） 段ボールの需要予測

全国段ボール工業組合連合会

2023年（暦年）段ボール需要予測 14,850百万㎡ 前年比101.0%

2022年の日本経済は、新型コロナのまん延等重点措置が全面解除となった4～6月期に実質GDP成長率が前期比年率で+4.6%となったものの、7～9月期は世界的な物価高の影響から消費が盛り上がり欠け、外需部門の不振もあって▲1.2%となりマイナス成長となった。10月以降は外国人旅行者の水際対策緩和によるインバウンド需要の回復が見込まれる一方で、物価高による消費者マインドの悪化、金融引締めやゼロコロナ政策による世界経済の減速等の下押し圧力もあり、民間調査機関の多くは2022年度の実質GDP成長率を+1%台後半と見込んでいる。

2022年の段ボール需要については、2021年12月に当連合会は前年比101.7%増の14,870百万㎡と予測したが、1～10月累計の実績（10月は速報値）は前年比100.6%となっており、1～12月暦年では14,700百万㎡（前年比100.5%）程度となる見込みである。

2023年度の国内経済は、ウイズコロナへの移行により回復基調が見込まれるものの、世界経済の悪化、資源・食料価格の高騰等の下振れリスクもあり、民間調査機関による実質GDP成長率予測は概ね+1%台前半となっている。

このような段ボール需要動向、経済見通しを考慮して2023年（暦年）の段ボール需要を14,850百万㎡（前年比101.0%）と予測した。期間別内訳は、景気動向や仮需の動向等を考慮して、1-3月102.0%、4-9月100.5%、10-12月101.0%と予測した。

主な需要部門別動向としては、「加工食品用」（構成比41%）は、行動制限の撤廃による外出機会の増加、水際対策の緩和による外国人旅行者の増加等で、飲料や業務用加工食品の回復を見込み、1.5%程度の伸びと予測。

「その他」（構成比18%）は、家庭紙や高齢者向けの衛生用品の底堅い需要に加え、マスクや除菌シート等の日用衛生品も衛生意識の定着により堅調に推移することを見込み、0.5%程度の伸びと予測。

「青果物用」(構成比 10%)は、前年初期の北海道をはじめとする天候不順による落ち込みの反動を見込み、天候が通常であれば全体として 0.5%程度の伸びと予測。

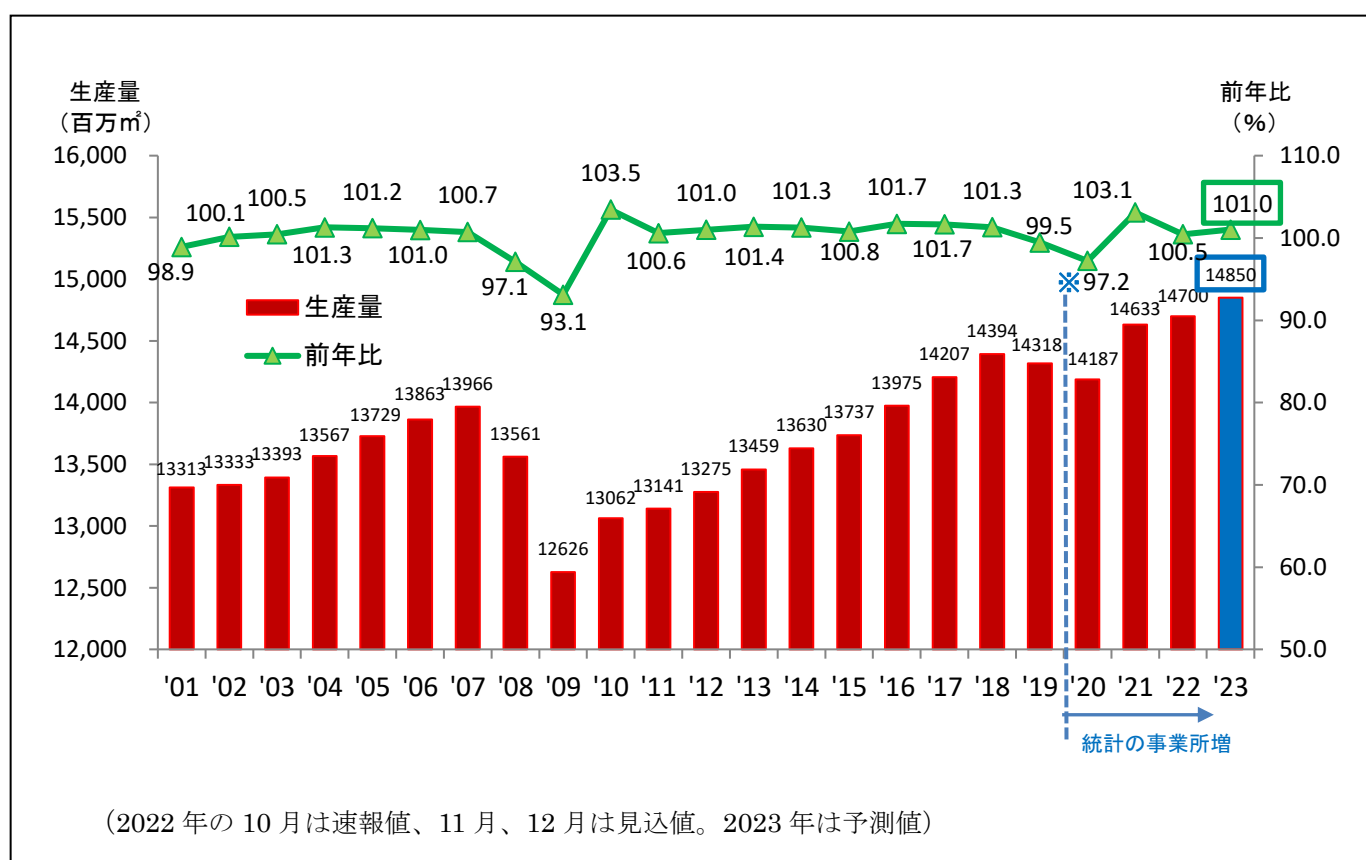
「電気器具・機械器具用」(構成比 7%)については、世界経済の減速懸念はあるものの、円安による輸出増、半導体不足の収束に伴うペントアップ需要等の寄与により、1%程度の伸びと予測。

「薬品・洗剤・化粧品用」(構成比 6%)は、外出機会の増加に伴う化粧品の持ち直し、インバウンド需要の増加を見込み、1%程度の伸びを予測。

「通販・宅配・引越用」(構成比 6%)は、定着した E コマース需要の堅調な推移を見込み、3%程度の伸びを予測。

以上

段ボール生産量推移



※ 2020年1月より統計に新たな事業所が追加(約1.9%、276百万㎡/年相当)されたため、前年比については2020年のみ調整している。追加分は2019年以前の生産量には含まれていない。